

提案 1

提案名：県主催のロードサポートの推進

主体者：一般住民有志

関係者：一般住民（核になる人は必要） かつて2団体様が活動実績あり
行政（保険・道具・花苗等の提供）

提案内容と関係者の役割：

十数年前、県の募集で2団体程が活動していた。きっかけは街道があまりに汚かったこと（ゴミ・草 etc）。その後、ゴミはずいぶん減少。現在も社協ボラ連が年1～2回掃除をしているが、草等のはびこっているし、バイク屋さんが勝手に販売場所として使っていたりしている。きれいな町実現の一つとして、川越街道を美しく保つことにより「オッ！」と注意をひけると町のPRにもなる。現在も県事業としてあると思う。できれば、農家さんにご協力頂き、道路沿いの畑の一部にカンナ・矢車草・大根花などを植える。

見込まれる効果：

町のPR。住民にも心地よい町となる。また、取り上げ方によっては観光資源にもなる。自分達のしている事が世間にわかるのを好む方も多いことを考えて、わかりやすい事業かと思う（広報等にも取り上げると効果も大きいかも）。
前期高齢者に参加してもらえると介護予防にもなる。

その他：町にはそば畑・菜の花畑等の観光資源になりそうな所も多い。できるならば、町内障害者施設とコラボして、休んでいる畑をお借りできれば、花畑を作ることもできる（販売でなければ取り組みもしやすい）。土埃・砂埃対策にもなる。

提案2

提案名：前期高齢者に「今日行く」と「今日の用事」を

主体者：住民（核になる人・団体は必要）

関係者：地域包括支援センターとのコラボ

提案内容と関係者の役割：

- ・団塊の世代が 60～70 代の現在、彼らの生きがい対策（健康保持含む）は必要であり、もっともっと活用すべきでもあるのでは？ 自制による健康管理も重要だが、世間の役に立っているという有用感を持つ事は健康保持の上からも有効であると思われる。「人の為になる事」は実は「自分の為」になっている。
- ・買物に行きづらい人の為に乗合の車を出す。川越・霞ヶ関中央病院の取組みで、昼間空いている送迎車を使わせてもらって、地域高齢者をスーパー等にお連れしている。お返しは病院での話し相手や簡単なお掃除ボランティア。東京小金井市の取組みはでは、どこでも乗り降りの安価な小型車の運行などの実例あり。

見込まれる効果：

介護予防による介護費抑制

高齢者の生きがい対策、買物難民の解消とつながりの醸成。「やれる事はやる」事で自分の為にも社会の為にもなる。また、将来の高齢者（若者）の手本にもなる。

その他：現在、スクールガード等で前期高齢者が活躍中

提案3

提案名：まぜこぜ社会による絆づくり（あいさつ声かけ運動）

主体者：住民全体

関係者：住民全体（核になる人は必要）

提案内容と関係者の役割：

- ・社会は同年代集団で成り立つよりは、他年代が寄り合って、寄り添っている方が安定する。全ての世代が生きがいや日々のうるおいの中で暮らせたなら、孤独死やいじめも少しは減るのでは・・・
- ・ご近所の声掛けを促す。ずっと昔、中学校が荒れたとき、住民・教師が心して生徒への声掛けをした事がある。いろんな人が自分のことを見ていてくれるという感覚は心の安定につながる（困ったときのよりどころがある）。

見込まれる効果：

高齢者や自信を持ってないでいる児童は気持ちがいきづまりがち。大げさでなく、それとなくの声掛け（あいさつ等の）はホッとするとときになる。深入りしすぎない根気良くの働きかけは「いつ自分が当事者になるかわからない現代」において、つながり絆による社会の安定をもたらす。住みやすい町、やさしい町として将来的に転入者増も。

- その他：
- ・現在、全国的に流行の子ども食堂は社協主催のものがある。元々、親の都合（多忙 etc.）で十分に配慮された食事が摂れない児童対象であったが、そのうち高齢者の人も参加するようになり、世代交流の場ともなっている（世話人・材料）の不安定さに問題が出ている。
 - ・社協の呼びかけによる地域での居場所づくりが現在、北永井3区で月1で集会所の1日解放（いつでも好きな時に来て、好きな事をする）が行われている。こちらも今のところ、十分に機能発揮とまではいっていない。

提案4

提案名：NHK大河に売りこもう

主体者：住民全体

関係者：住民全体（核になる人は必要）

提案内容と関係者の役割：

三富開拓が江戸から今につづく地域開拓活性化のモデルである。又、広範囲な武蔵野の開拓で今に残って続けているのは、この地域だけのようである。町民として大いに誇りにしていいし、先祖の苦労の上に今がある事、今でも最先端の農業技術である事等、全国に知ってもらいたいことでもある。夢物語かもしれないが、越生町が太田道灌（どうかん）を売込み中と聞いている。武蔵野の地がどのように開かれてきたのかは、私たちも知りたいところでもある。郡洋紙の「赤い風」（役場7Fにおいてあった）が映像化されないものかと思う。

提案5

提案名：自治体向けふるさと納税型クラウドファンディングの活用

主体者：株式会社 マクアケ（当金庫 業務提携先）

関係者：三芳町 当金庫（株式会社マクアケ） 納税者

提案内容と関係者の役割：

本件はクラウドファンディングの仕組みを活用したふるさと納税の一種となります。自治体の活動要望に対して、寄付者がその活動等に共感することにより寄付することになる。寄付者は自治体からの返礼品（リターン）と寄付金に応じて一部税金の控除を住んでいる市町村から受けることができます。見た目はクラウドファンディング、裏側はふるさと納税という仕組みを実現しております。

見込まれる効果：ふるさと納税同様の取り扱いが可能

自治体としての活動をふるさと納税よりも効果的にPRすることができ、ファンづくりを通じた関係の人々の創出・拡大が期待できる

提案6

提案内容と関係者の役割：

藤久保第1、第2区画整理事業も終盤を迎えたが、人口は思うようには増加に転じてはいません。一方で農地は農業者の高齢化と担い手不足で今後ますます耕作放棄地と未利用地が増えていくことが懸念されます。

こういった状況下で三芳パークングのフルインター化は大きな転機になると考えます。パークング周辺の工業団地化区画整理事業の推進により工場の誘致と雇用の創出を促す。

次に竹間沢大井勝瀬通り線の整備と藤久保中学校周辺（川越街道東側）の区画整理事業を行い都市農業公園（直売所の設置）を整備しつつ住宅地と移行する。

見込まれる効果：

この工業団地区画整理事業による工場誘致で雇用の創出を誘導し藤久保地区への定住を促進する。また農地の減少分を川越街道西側に農地の集約を図り農業者に対し未利用地等の活用を促し耕作放棄地ゼロを目指す。